

母さんの様子が
変わった...

僕が初めて
精通した日

グーッ
なよ...

もう...
大人になった...
みたいぬ...



淡々と洗濯する母は
どこかうれしそうだ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

グーッ...

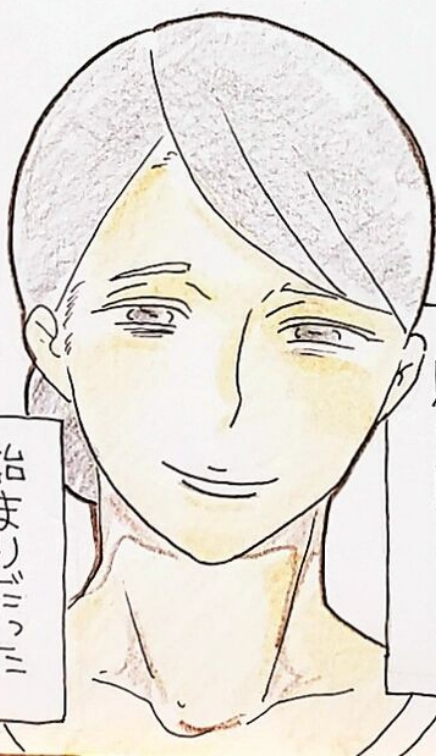
恥ずかしいが
母はせつないロリ

子供の成長が
うれしい...

それだ...

母さんのロリ

始まった



部屋…
目撃…

着替える
から…

熱があるのか頬は赤く
目元にも力がない

じゅじゅ…

鼻につく
汗ばんだ匂い



日々
強くなる
その日は…

母さん…
先に寝るわ…

あっ……ん……

あ……

はあ……

はあ……

あ……

あ……

女として
熟れゆく
甘い香り

……

ゴク……
ビク……

それでも母の女性器は
美しく僕を誘っていた……

その視線を切った
のは母さんだった

その口元に誘われるまま
母の部屋を覗く……
瞬間、視線が絡み合う

今の私では相手にするだけ
無駄なのだろう……



お風呂
入ったら...

服、忘れて...

みんな私のことを知んな

母さんね...

度々僕の前に
裸を晒した...

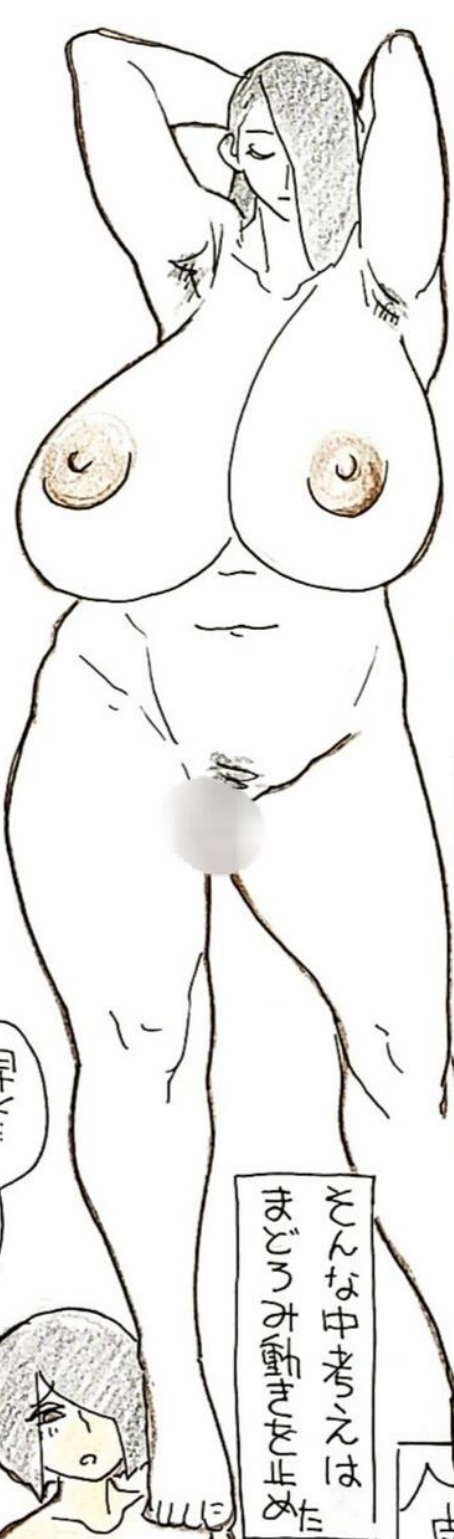
そんな中考えは
まぶつたおまんこ止めた

早く...
おまんこ...

あ、もが
はえてる...

心は進まずとも
体は進んでいく...

肌が
剥けた...



なんじの...
なんじの...

じやうこう
今日の仕事代

掃除 終わり
ました

なんじの...
なんじの...
なんじの...
なんじの...

なんじの...
なんじの...
なんじの...

なんじの...

なんじの...
なんじの...

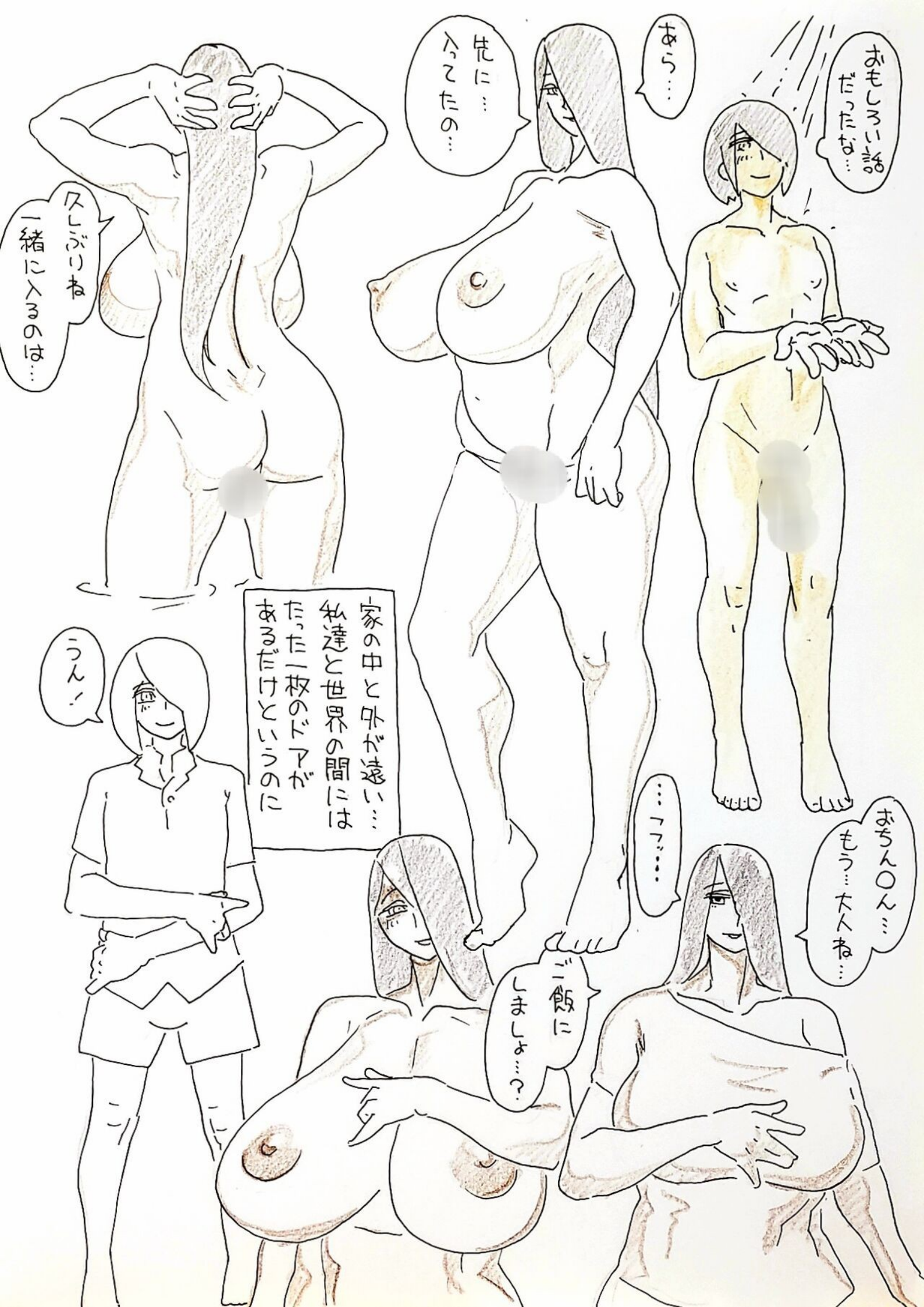
なんじの...
なんじの...

なんじの...

なんじの...
なんじの...
なんじの...

なんじの...
なんじの...
なんじの...

なんじの...
なんじの...
なんじの...



おもしろい
だったな...

あら...

先に...
入ったの...

久しぶりね
一緒に入るの...

家の中と外が遠い...
私達と世界の間には
たった一枚のドアが
あるだけというのに

うん!

...フフ...

おちん○ん...
もう...大人ね...

ご飯に
しましよ...?

あの子...
おっぱい...
ん...
あ...

私を求めて...
勃起...
してた...

ゴメン...
トイ長くて...

たった一枚のブラが
あるだけで、私達は
こんなにも自由だ

母さん...

今日は
一緒に...
寝てもいい？

どうしたの...?

急に甘えて...
ぬいぐるみもあつた？

今夜、大罪を犯そうと
誰も咎める者はいない...

大丈夫よ...

今夜はずっと...
一緒にいてあげる...



春先には珍しく
汗ばむ程の夜だった

...

あの日以来...
僕は夕々に
母の部屋へ訪れた

...

服...どうしたの...?
まあ...はいいけど...

何年ぶり...
かしらあ...

あーんも...
あーんも...

何気ない会話の中「母さん」と
呼ぶ...母の「はあ」「ん」との
返事がたまらなくなっていく

本当にうれしかった
母さんは今でも
母さんだった事が



ぼろぼろとこぼれる
女顔の下には...

今か今かとスキを
伺う本能という
性欲が覗いていた

言葉も尽き
静かな時が
訪れる...

そして
始まる

僕はただ、胸を見せ
服従していた...

頭を衝かせ
必要はない...

後は私達の体が
何をすればいい...



動物の様に丁寧な交尾も出来ず性欲に溺れもがく

振り乱す胸は産まれ出るその為には思えない

脈打つ度に訪れる一時の静寂...
僅かに残る気性は
あゝミミオミミ

声を出し、息は乱れ口からは涎の雨...



『聞いて驚くんだよ』

『ギンズナッては物はお...』



『相手を選ぶ理由がなんの』

『生まれる子供は母体のクローン...
受精しても遺伝子には何の』

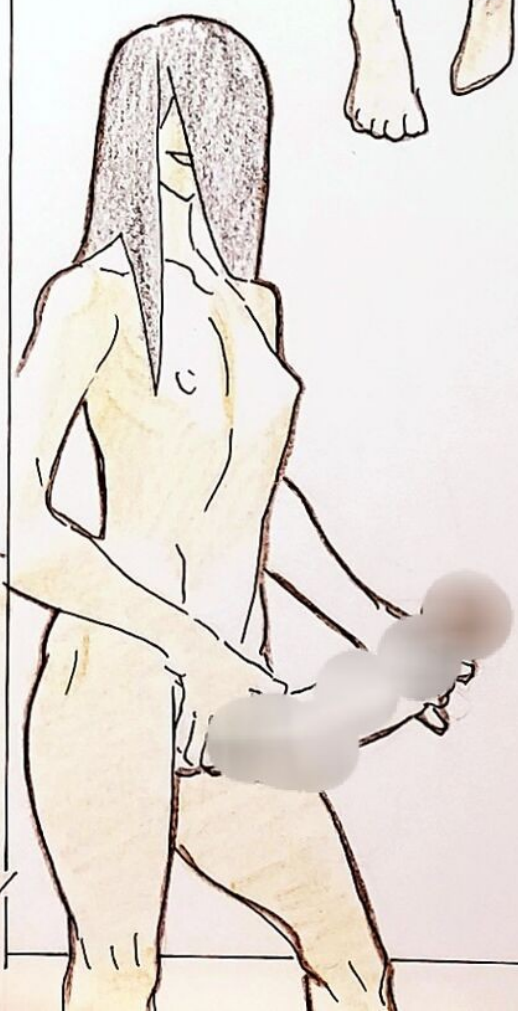
『影響も起ころうない』

『更にその精子も』

『同種である必要すら無いの
実験的に試された結果
ウガイザビビョウとの子も成した』



『ごく稀にはまれ出る同種のオス
トとえその関係が親子だとしても』



『拒む理由はなんでも無い
問題が湧くだけなんだ...』



『僕達も同じだお...母さん...』



おっぱい
おっぱい
おっぱい

母と子
なある今

おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい

おっぱい
おっぱい
おっぱい

子供が生まれた

からめたぶんばい

ちゅう母さんに

きりりな美人だろう

日々大きくなる母さんの中の命

その成長がたまらなくなりました

